



西脇 親 議員
(改革未来・自民の風)
・加西市民の会



政策決定過程は正しく行われているのか

問 政策形成の進め方、手順は。

答 総合計画及びその実施計画である行財政改革プランに基づき、市が目指す将来像や費用対効果を鑑みながら各種取組を推進しています。効果的な市政運営のため、PDCA サイクルの考え方を取り入れ、加西市総合政策審議会を毎年度開催し、評価・検証とフィードバックを行っています。

問 政策決定があまりにも早急過ぎないか。

答 行政課題は多岐にわたるため、限りある財源を最も効

果的に活用できるよう、行財政改革プランに基づき事業の取捨選択とともに、施政方針や総合計画の目標達成に最も効果的かつ実効性の高い事業を選択しています。一方、市長の政策ビジョンに基づく大型建設事業は、その重要性和緊急性から、通常の投資的経費の上限額とは異なる投資枠として位置づけ、優先的に取り組んでいます。

問 政策を決定するのは誰なのか。

答 政策決定のプロセスは、庁内で事業の実施計画のヒアリング・査定を行い、市長が最終決定します。特に大型建設事業は市長の強いリーダーシップの下に政策決定のプロセスを進め、事業担当課からの事業実施計画の要求に基づき事業が決定されます。

問 市長の声で順番が変わるといことは。

答 (市長) 政策決定は市長が全部決められるものではありません。方向性は示しますが、各部署がその方向性に基づいて立案し、進めます。

問 EBPM (エビデンスに基づく政策立案) が必要であると考えますが、現状は。

答 OJT (職場内教育) を磨き続けることが職員の企画立案、実行能力の開発と育成には不可欠です。客観的な評価から得られた知見を庁内で共有し、今後の政策に生かすことで職員一人一人の政策形成能力を高め、未来に向けた効果的なまちづくりを着実に進めていきたいと考えます。

■その他の質問項目

- ・災害対応について
- ・オークタウン加西のあり方



深田 照明 議員
(加西市民クラブ)



県立フラワーセンターの現状と道の駅構想について

問 昭和 51 年 4 月開園後の来場者の推移は。

答 年間来場者のピークは平成 4 年の 61 万 8,484 人です。直近では令和 4 年度 23 万 4,000 人、5 年度 20 万 8,000 人、6 年度 19 万 5,000 人となり、令和 7 年 4 月は 4 万 7,620 人、5 月 2 万 8,875 人、6 月 8,950 人となっています。6 月は昨年度同月比で 66.1% と大幅に減少しています。

問 今年 5 月に来場者の楽しみでもあった園内のレストラ

ン、大温室内の軽食店、南入口のテイクアウトカフェ、ギフトショップの 4 店舗が一度に閉鎖された理由と現状は。

答 民間事業者が 4 店舗を一括して請け負っていましたが、県との条件が折り合わずに撤退されました。現在県において次の事業者を探している状況です。

問 市としてフラワーセンターの必要性和役割をどう考えているのか。

答 フラワーセンターは約 4,500 種の植物を収集栽培し、四季折々の花々を展示して来園者に植物の多様性や美しさを伝えるなど普及啓発を行うとともに、園芸や植物の育て方に関する相談、植物に関する専門的な情報を提供す

る役割があります。また、加西市の観光資源として地域の経済活動を活性化させる役割があり、必要性は高いと考えます。

問 フラワーセンターを「花に囲まれた道の駅」として、花の観賞や散策、古代鏡展示館の活用促進、加西市の野菜・物産直売所設置により多くの人が集まる観光拠点にしてはどうか。

答 道の駅は大きな観光拠点になり、地元特産品等を販売する機会が増え、地元雇用も図られて地域の経済活性化につながる可能性はあると考えます。しかし、費用対効果を含めて運営維持が厳しいため、現段階では市が主体となって提案することは考えていません。